

岩見沢市立第二小学校

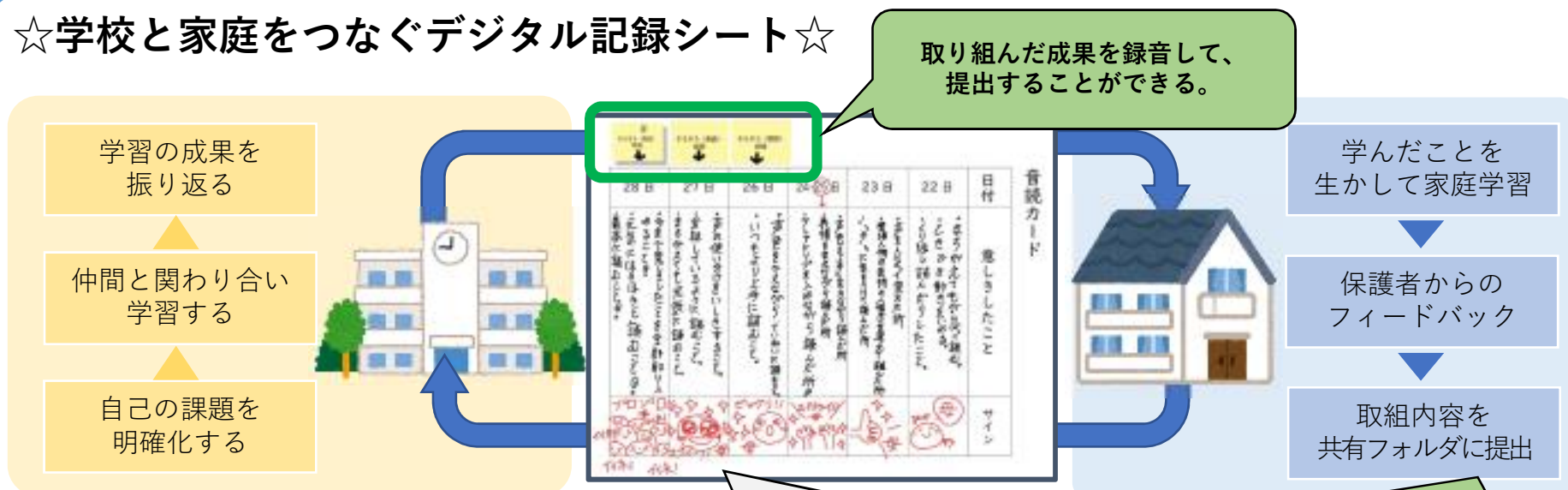
全校児童数：125名 実施学年：第4学年

学習習慣定着モデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : Qubena
アプリ : Qubena、ロイロノート

■ 取組の方法

☆学校と家庭をつなぐデジタル記録シート☆

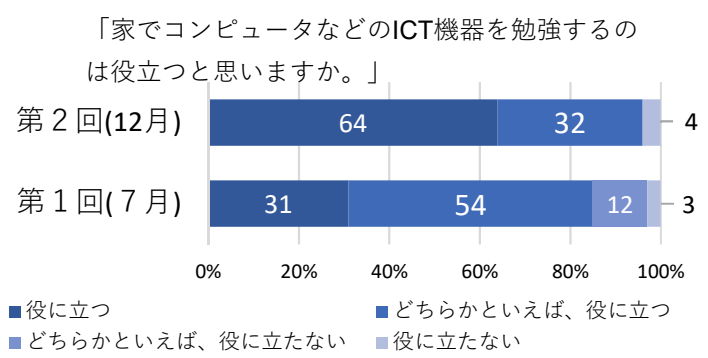


用紙はWordで作成後PDFに変換してロイロノートにアップロードした。

取組内容について共有することにより教師は児童の取組を確認することができ、子ども同士も取り組み方を学び合うことができる。

■ 児童の変容

○ ICT機器で勉強することは、役に立つと実感している。
児童が学習履歴を記録することにより、自己の課題が明確になり、改善に向けてより効果的に学習しようとする態度が見られた。
家庭学習の内容について、何を学習すればよいか悩んでいる児童の姿が見られたものの、タブレット端末で学習内容を共有することにより、友達の間を参考にしながら、自分に合った学習内容を選択して取り組んでいる様子が見られた。



富良野市立富良野小学校

全校児童数：327名 実施学年：第3～第6学年

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : オクリンク、MEXCBT

学習習慣定着モデル

■ 取組の方法

◆ 家庭学習での活用

MEXCBT活用による個に応じた指導の充実

- ・ MEXCBTで課題を配信し、児童の取組状況や結果等を把握することで、児童一人一人に応じた支援を充実



【MEXCBTの画面】

◆ 意見や考えを伝える力の育成

自分の発表内容や意見の共有

- ・ ICTを活用して友達のよい意見や発表の仕方を取り入れる場面を設定し、児童同士で学び合う習慣を醸成

◆ 思考の過程の可視化

協働的な学びの実現

- ・ ICTを用いて思考を可視化し、授業内外において、児童同士の交流を促すとともに、学級担任が児童一人一人の学習状況を把握し適切に支援



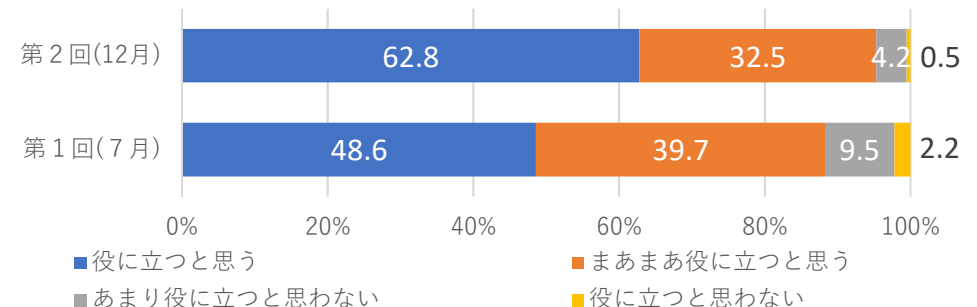
【児童の思考の可視化している様子】

■ 児童の変容

効果的に端末を活用した取組の成果

- 授業内外において、児童同士がやり取る場面で端末を活用したことにより端末活用の有用性を実感する児童が増加した。
- 考えを整理したり、自分の考えをまとめたりする能力が向上するとともに、自ら効果的なアプリを選択することができるようになった。

「タブレットを使うことで、ともだちに意見や考えを伝えやすくなったと思う」



肯定的な意見が**増加**